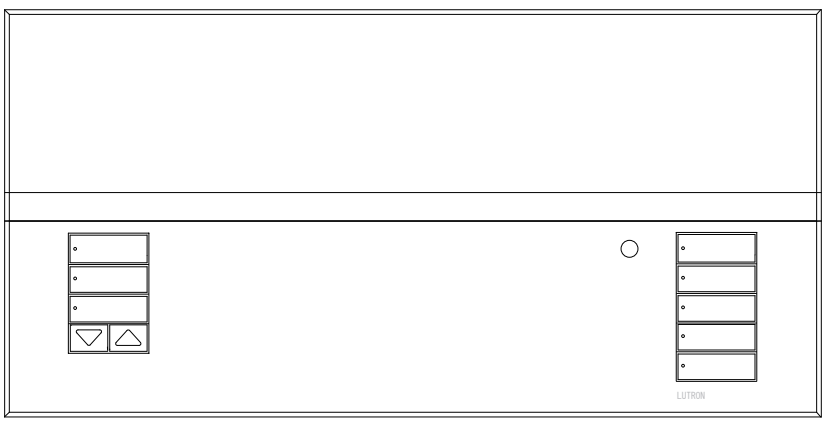
LUTRON®

GRAFIK Eye® QS システム

取付・取扱説明書

必ずお読みください

GRAFIK Eye QS システムでは、ボタンによるシーン呼び出し、省エネ率や状態を表示する液晶インフォスクリーン、赤外線受光部、年間タイマー、在室センサー接続、見やすく操作しやすいバックライト付きボタンなどの多くの機能を備えています。さらに,照明とSivoiaQS電動カーテンの両方を同一のコントロールユニットで操作することができます。



モデル番号	ユニット合計最大容量 (単位: ワット)	1ゾーン最大容量 (単位: ワット)	ユニット最大発熱量 (単位: kcal/時)
QSG - 3P100	1600	600	16
QSG - 4P100	1600	600	16
QSG - 6P100	1600	600	16

(その他の定格については 8 ページをご覧ください)

全ユニット: AC100 V∿ 50/60 Hz

目次

取り付け

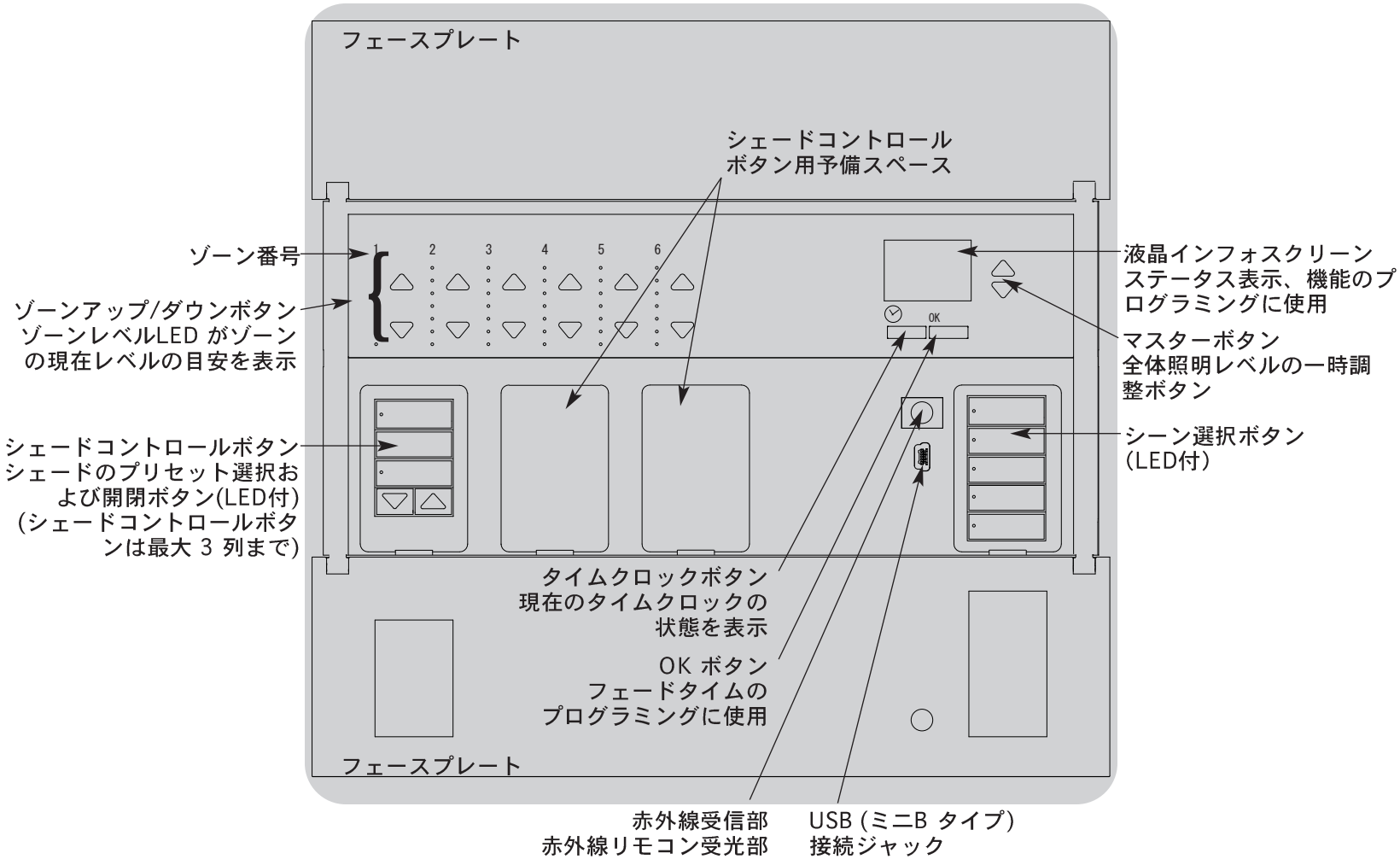
GRAFIK Eye QS システム各部の名まえと機能 2
GRAFIK Eye QS システムの配線 3
GRAFIK Eye QS システムの配線
低電圧配線 ルートロンGRX-CBL-346S ケーブル 4
QS システム低電圧配線 5
QS システム低電圧配線接続 6
GRAFIK Eye QS コントロールユニットムの取り付け 7
ゾーンセットアップ 8

操作

工場出荷時のボタン機能 10
基本機能 11
基本機能: プログラミングモード 12
ゾーン アップ/ダウン ボタンの操作 13
ゾーン名の作成 14
クイック シーン プログラミング 15
シーンセットアップ 16
ゾーンLED による照明レベルの表示 17
タイムクロックの操作 18
保存オプションの設定 23
在室センサーの設定 24
システムアクセサリーの設定 25
フェースプレートの取り外し 25
トラブルシューティング 26

保証規定 28
連絡先 28

GRAFIK Eye® QS システム各部の名まえと機能



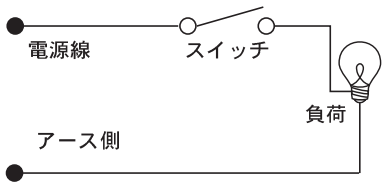
GRAFIK Eye® QS システムの配線

配線に関する重要な注意事項

- 電源線には必ず VVF-2.0mm 等の適切な電灯線をご使用ください.
- 分電盤に適切な短絡保護装置と過負荷保護装置が備え付けられているか確認してください。また、最大 20 A までの分岐ブレーカーを使用してください。
- ご使用になる国または地域の電気関連法規すべてに従って取り付けを行ってください。
- 赤外線受信部、在室センサー、コントロールを配線する際、必要に応じて低電圧コネクタは取り外すことができます。

注意! コントロールユニットに負荷を接続する前に、負荷に短絡がないかチェックしてください。

1. ブレーカーをオフにします。
2. 電源線と負荷線の間に、標準の電灯用スイッチを接続し、回路テストをします。
3. 電源を入れ、回路短絡・開放の確認をします。負荷が点灯しない場合は、回路が開放状態です。ブレーカーがトリップした場合、回路が短絡しています。配線を確認のうえ、再テストしてください。

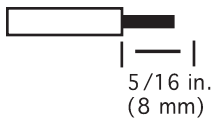


注意! 電源線は絶対に低電圧端子に接続しないでください。

- アース端子へは配線図のとおりに接続してください。
- 同じゾーンに異なる負荷タイプを接続しないでください。
- ご使用になる国内または国際電気関連法規すべてに従って、低電圧配線と電源配線を行ってください。
- QS コントロールユニットの取り付けを始める前に、負荷に短絡がないかチェックしてください。

コントロールユニットに電源線を接続する。

1. スイッチボックス内の電源線の絶縁被覆を約 8 mm 剥きます。



2. 電源線、アース、負荷の電線をコントロールユニット背面の、それぞれ対応する端子に正しく接続します。
   推奨締付けトルクは電源線接続、アース接続とも 0.6 N·m です。

警告! 本器の取り付けには、電気工事士の資格が必要です。必ず専門の業者の方が施工を行なってください。誤配線は人身事故を招いたり、グラフィックアイQS調光器や他の機器の故障の原因になる場合があります。全ての作業を行う前に、必ずブレーカーがオフになっていることを必ず確認してください。オンのまま作業を行うと、大きなケガにつながる恐れがあります。本器の電源を完全に切るには、2 箇所以上での給電停止が必要な場合があります。機器の接続・点検は、関係する電源をすべて切ってから行ってください。絶縁抵抗テスト・トリップテストは調光器を取り付ける前に行なってください。一瞬の短絡で内部機器が破損し、発火の危険があります。最大容量を超える付加は接続しないでください。故障・異常発熱・火災などの原因となります。本器は一般屋内取り付け専用です。浴室や屋外など湿気の高い場所には設置しないでください。故障・火災・感電などの原因となります。本説明書に記載された電線を使用し、確実に結線してください。指定外の電線の使用や不十分な結線は、異常発熱・火災の原因となります。改造をしないでください。故障・異常発熱・火災などの原因となります。本器の出力側にコンセント等の受け口を接続しないでください。故障・火災などの原因となります。それぞれのパワーモジュールに適合する負荷以外のものは接続しないでください。負荷にあったパワーモジュールを選定してください。故障·異常発熱・火災などの原因となります。

GRAFIK Eye® QS システムの配線
外部機器接続用　低電圧配線

拡張用赤外線受信部接続端子 (IR) の配線

各端子 1.25 mm²
のより線1本まで
外部赤外線信号
接続 (他社製品)

1: IR DATA
2: IR COM

在室センサーの配線各端子 1.25 mm²
のより線1本まで

各端子 18 番 AWG
(1.0 mm²)

A: OCC SIG
B: 24 V
C: OCC COM

在室センサー
(他社製品)

QSシステム用　低電圧コントロール配線
(ルートロン専用信号線GRX-CBL-346Sを使用)

コモンおよび電源線 (端子 1 および 2):
端子1：黒　　端子2：赤

各コントロールステーションまたは他の *GRAFIK Eye* QS コントロールユニットへ

1: COM
2: 24 V
3: MUX
4: MUX

データー線 (端子 3 および 4):
端子3：紫　　端子4：白

電源線および負荷の配線

各端子 VVF-2.0mm
1本まで

1 2 3 4 5 6 L N

負荷 1 へ
負荷 2 へ
負荷 3 へ
負荷 4 へ
負荷 5 へ
負荷 6 へ

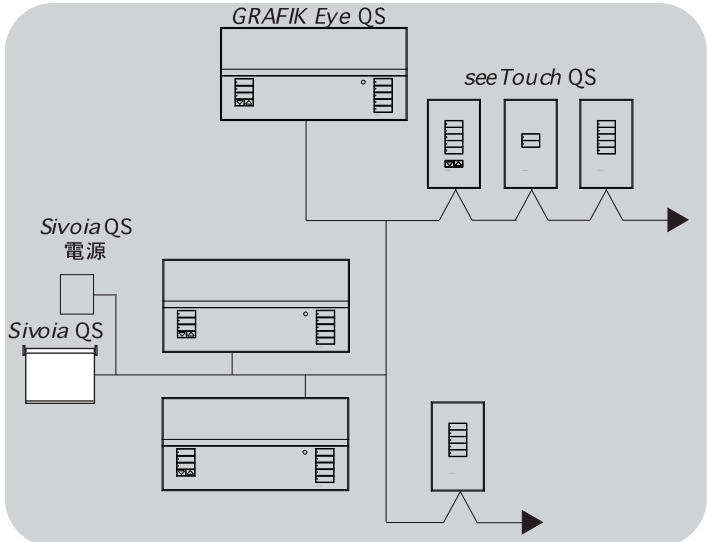
L N
AC100V

分電盤

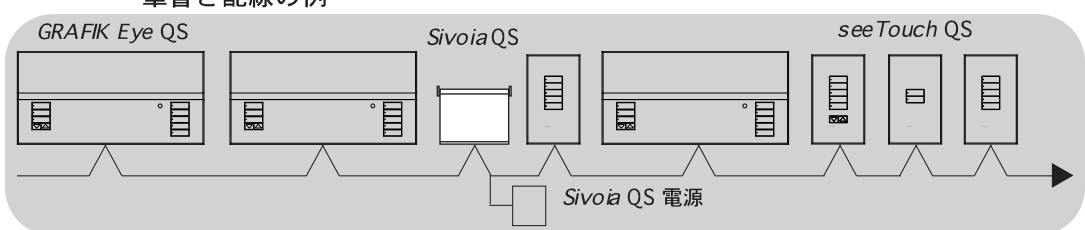
QS システム低電圧配線

- システムの通信には低電圧配線 (ルートロン　GRX-CBL-346S) を使用します。
- ご使用になる国内または国際電気関連法規すべてに従って、低電圧配線と電源配線を行ってください。
- 各端子 1.25 mm²のより線2本まで接続可能。
- コントロールリンクの最大総配線長は 150 m です。(GRX-CBL-346S使用時)。
- コントロールユニットの接続はすべてスイッチボックス内で行なってください。
- QS システムにはゾーンを 100 まで、また機器を 100 台まで接続することが可能です (右表参照)。
- 配線は T タップまたは一筆書き配線にしてください。

T タップ型配線の例



一筆書き配線の例



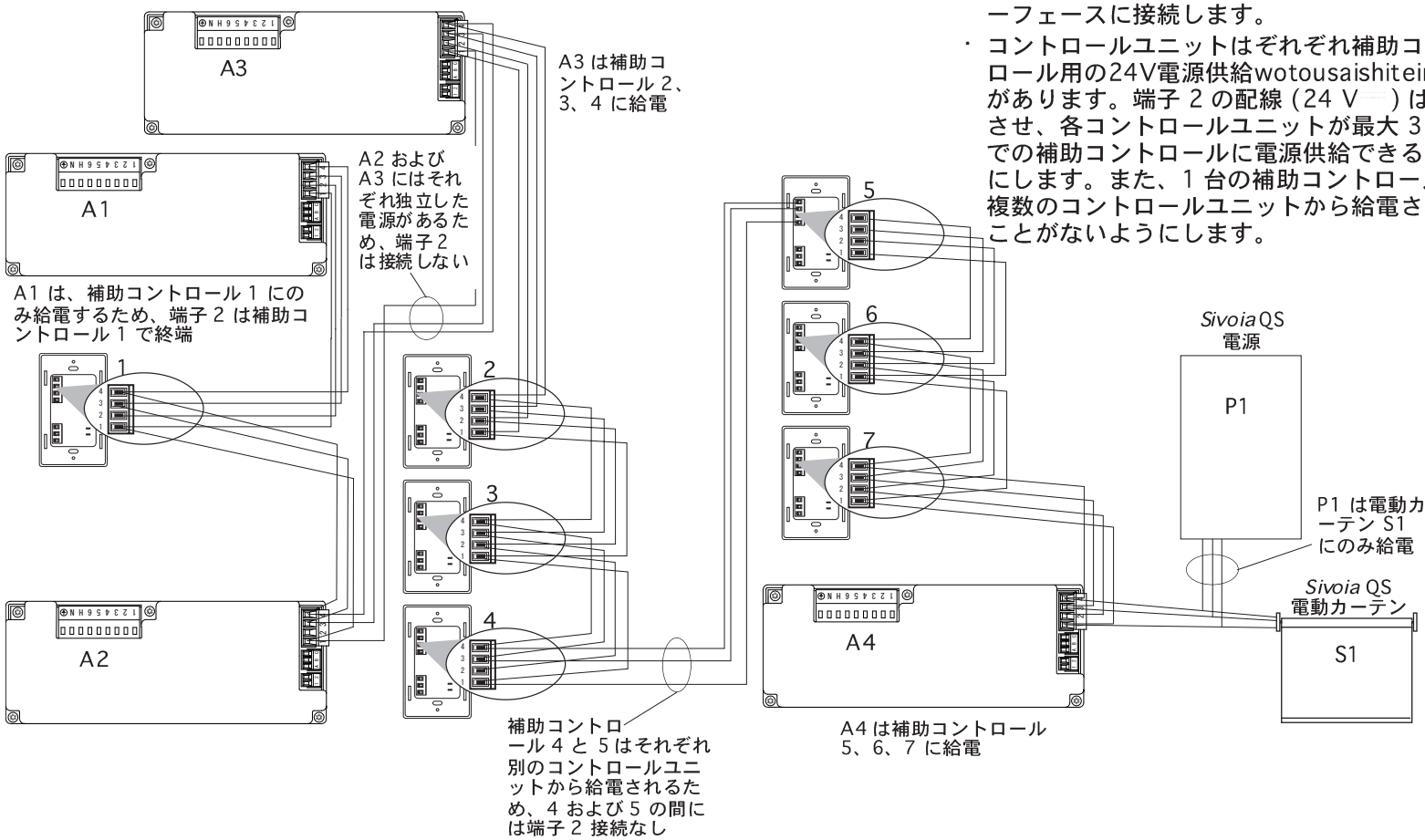
システム許容量

QS 機器	ゾーン数カウント	機器数カウント
3 ゾーン QS	3	1
4 ゾーン QS	4	1
6 ゾーン QS	6	1
seeTouch QS	0	1
Sivoia QS	1	1

QS システム低電圧端子接続

次の各図はコントロールユニットの背面を示しています

- 端子 1、3、4 をすべてのコントロールユニット、補助コントロール、コントロールインターフェースに接続します。
- コントロールユニットはぞれぞれ補助コントロール用の24V電源供給wotousaishiteimsがあります。端子 2 の配線 (24 V⎓) は終端させ、各コントロールユニットが最大 3 台までの補助コントロールに電源供給できるようにします。また、1 台の補助コントロールへ複数のコントロールユニットから給電されることがないようにします。

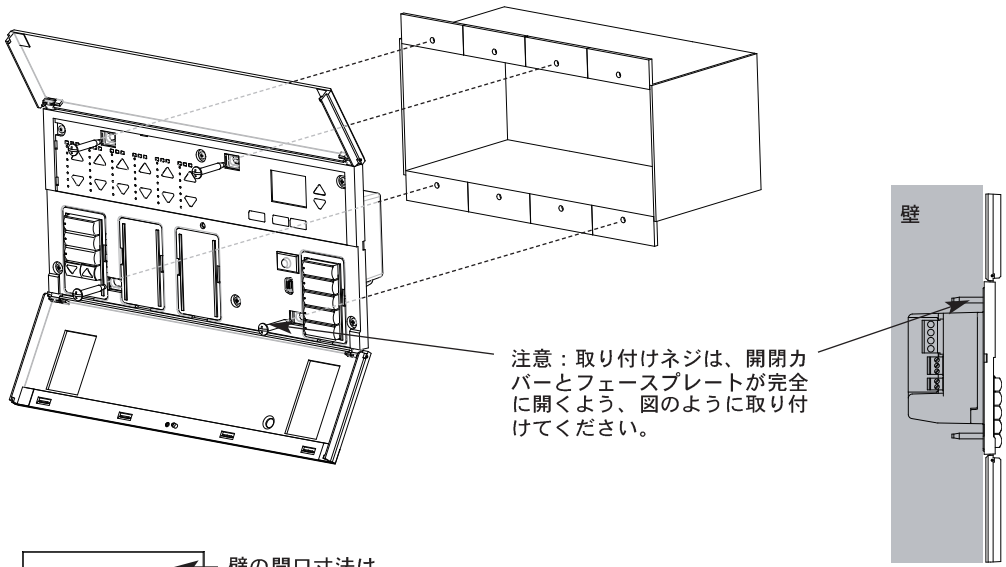


GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの取り付け

1. 奥行き 54 mm 程度の 4 個口深型スイッチボックスを、システムのプログラミングや操作が可能な、乾いた平らな屋内壁面に取付けます。適正に放熱されるよう、フェースプレートの上下に 110 mm 以上の空間を確保します。また各辺でフェースプレートが 25 mm はみ出るようにします。
2. 付属のネジ 4 本を使用して、右図のようにコントロールユニットを取付けます。

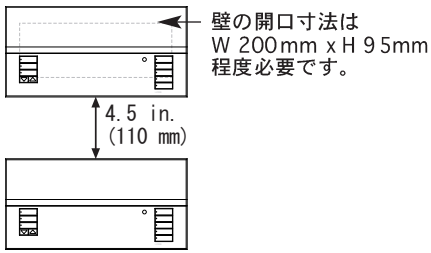
注意: ご使用になる国内または国際電気関連法規すべてに従って、低電圧配線と電源配線を行ってください。

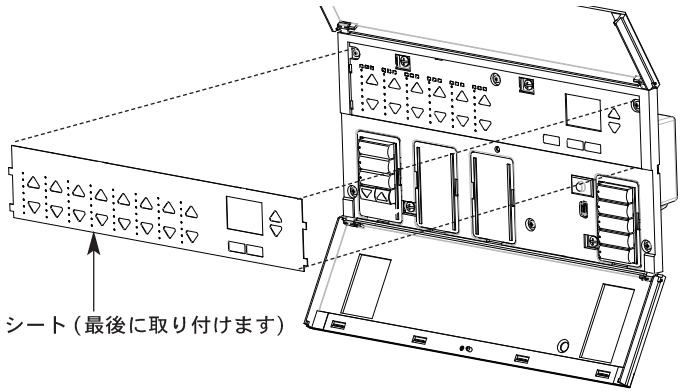
3. シートをコントロールユニットに取付けます。ゾーン名作成は 14 ページをご覧ください。



配線をチェックする

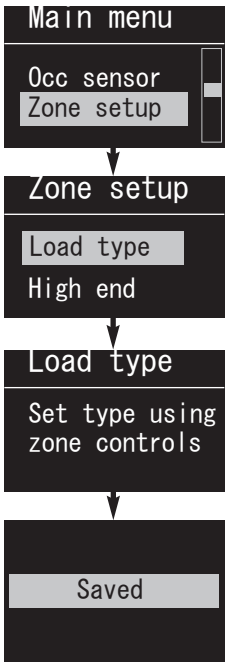
1. 電源を入れます。
2. シーン選択ボタンを押します。
3. ゾーン アップ/ダウン ボタンを押し、接続しているすべての負荷をコントロールユニットがコントロールできるか確認します。



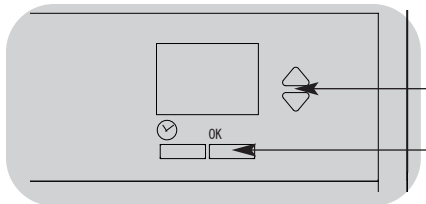


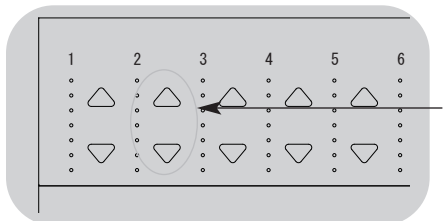
ゾーンセットアップ

負荷タイプを設定する



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Zone setup」(ゾーンセット アップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Load type」(負荷タイプ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、そのゾーンの負荷タイプを選択します。対応する負荷タイプについては下の表をご覧ください。OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイには、負荷タイプが保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。





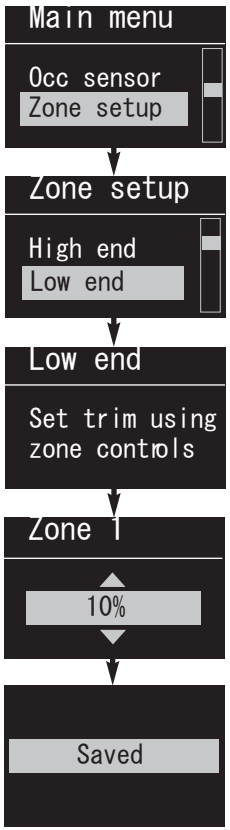
	GRAFIK Eye QS のメニューで選択する負荷タイプ:	
照明器具のタイプ ↓	*GRAFIK Eye* QS *で直接コントロール*	パワーモジュール経由でコントロール
白熱灯	Incandescent	Power module (マルチパワーモジュール)
MLV (電磁トランス付きローボルト球)	MLV	Power module (マルチパワーモジュール)
ELV (電子トランス付きローボルト球)	--	Power module (マルチパワーモジュール)
ルートロン蛍光灯安定器*Hi-Lume/Eco-10*	--	Fluorescent Module (蛍光灯モジュール)
非調光	Non-dim LOFO (非調光/最後にオン・最初にオフ)または Non-dim FOFO (非調光/最初にオン・最初にオフ)	Non-dim LOFO (非調光/最後にオン・最初にオフ)または Non-dim FOFO (非調光/最初にオン・最初にオフ)
ネオン/冷陰極管	Neon、CC	Neon、CC
Tu-Wire (日本では使用しません)	*Tu-Wire (日本では使用しません)*	*Tu-Wire*

負荷タイプに関する注意

- 電子トランス付きローボルト器具 (ELV) を使用場合は必ず、逆相調光制御が可能なインターフェース (PHPM-PA-100-WH) が必要です。電子トランスは調光可能型のものを使用してください。また、調光トランスはインターフェースとのマッチングテストが必須です。マッチングしないトランスを使用すると、不点・ちらつき・器具故障の原因となります。
- すべてのゾーンが接続されている必要はありませんが、接続されているゾーンには最低 25 W の負荷が必要です。
- 各ゾーンの負荷は600 W を超えないようにしてください。
- 照明負荷の最大容量はコントロールユニット 1 つにつき合計 1600 W です。
- 電磁トランス付ローボルト器具 (MLV) の照明負荷合計は、最大で1600 VAです。MLV ゾーンの最大負荷容量は、1 ゾーンにつき 600 VAです。電磁トランスの消費電力に注意して計算してください。

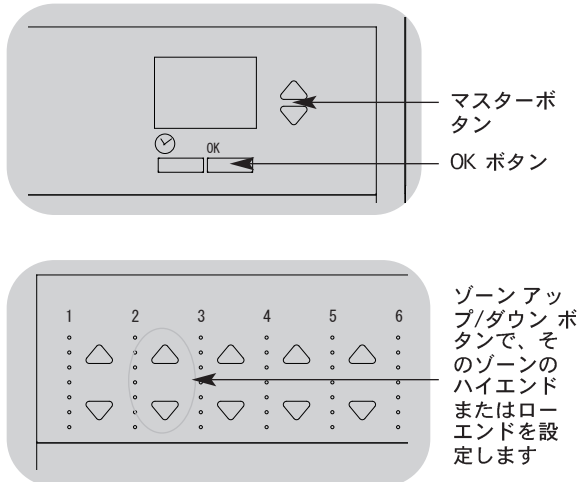
ゾーンセットアップ

ハイエンドまたはローエンドを設定する

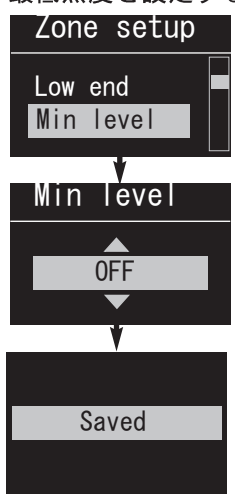


ハイエンド・ローエンドは各ゾーンの照度の上限または下限で、各ゾーンごとに設定が可能です。負荷タイプをプログラミングすると、上限・下限は自動的に設定されます。工場出荷時設定を変更する場合に限り、各ゾーンのハイエンド・ローエンドの調整をしてください。

1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Zone setup」(ゾーンセット アップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「High end」(ハイエンド) または「Low end」(ローエンド) にカーソルを合わせます (左の図では「Low end」が選択されています)。OK ボタンを押して決定します。
4. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、そのゾーンのハイエンドまたはローエンドを設定します。
   各ゾーン番号と照度 (%) がディスプレイに表示されたら調整し、OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。



最低照度を設定する (オプション)

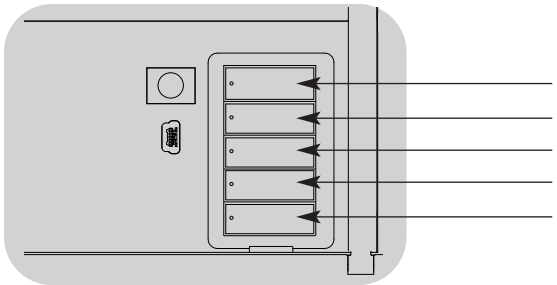


お住まいの地域によっては、居住建築物内の調光空間に対し、最低照明レベルが定められている場合があります。この規定が適用される地域にお住まいの場合は、次の手順に従って最低照明レベルを設定してください。

1. プログラミングモードにして (12 ページ参照)、「Zone setup」(ゾーン セットアップ) 続いて「Min level」(最低レベル) を選択します。OK ボタンを押して決定します。
2. 最低レベルを消灯とする場合は、マスターボタンで「OFF」(オフ) に、最低レベルを 10 % とする場合は 10 % にカーソルを合わせます。OK ボタンを押して決定します。
   注意: 非調光タイプ負荷の場合、設定内容に拘わらず消灯となります。
3. ディスプレイには、最低レベルが保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
4. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

工場出荷時のボタン機能

GRAFIK Eye QS システムのコントロールユニットは、特別なプログラミングをしなくても照明を点灯させることができます。工場出荷時のシーン選択ボタンは下図のような設定となっています。シーン設定の変更については、15、16 ページをご覧ください。



工場出荷時のシーン選択ボタン設定
（全回路調光）
シーン 1: 全照明レベル 100%
シーン 2: 全照明レベル 75%
シーン 3: 全照明レベル 50%
シーン 4: 全照明レベル 25%
全照明消灯

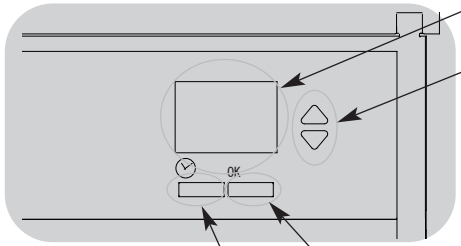
一般的な機能

ディスプレイは、最後のボタン操作またはフェードから 20 秒後に表示が消えます。

マスター アップ/ダウンボタンにはディスプレーを再びオンにする機能もあります。マスター アップ/ダウン ボタンは通常、調光タイプ照明のレベルを一時的に調整する場合に使用します (現在シーンが調整できないように設定してある場合を除きます)。このボタンで行う調整は一時的なもので、シーンのプログラミング内容が変更されることはありません。

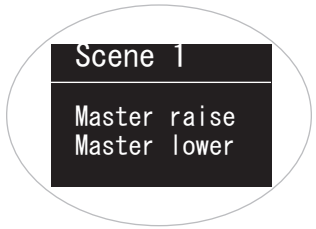
OK ボタンはディスプレイに、現在のシーンとフェードタイプを表示させることができます。フェードタイムの変更は、11 ページをご覧ください。

タイムクロックボタンは、ディスプレイに現在の時刻と次に予定されているイベント時刻、次のイベント内容を表示させることができます。

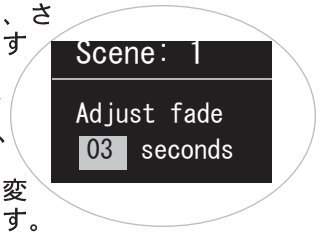


ディスプレイ:下記の表示例をご覧ください

GRAFIK Eye QS コントロールユニットのマスターボタンは、照明レベルを一時的に調整します (無変化設定、シェード、非調光ゾーンの場合を除きます)



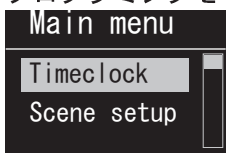
OK ボタンでディスプレイに現在シーンのフェードタイムを表示させることができます。もう一度このボタンを押すとゾーンの調整ができ、さらにもう一度押すとフェードを調整することができます。.調整後、OK ボタンをもう一度押すと、変更が保存されます。(「OK ボタン保存モード」になっている場合)



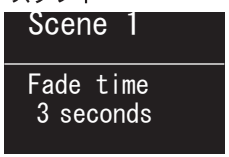
タイムクロックボタンで、ディスプレイに現在時刻および次のイベント、次のイベント開始予定時刻を表示させることができます

一般的な機能: プログラミングモード

プログラミングモードを開始・終了する



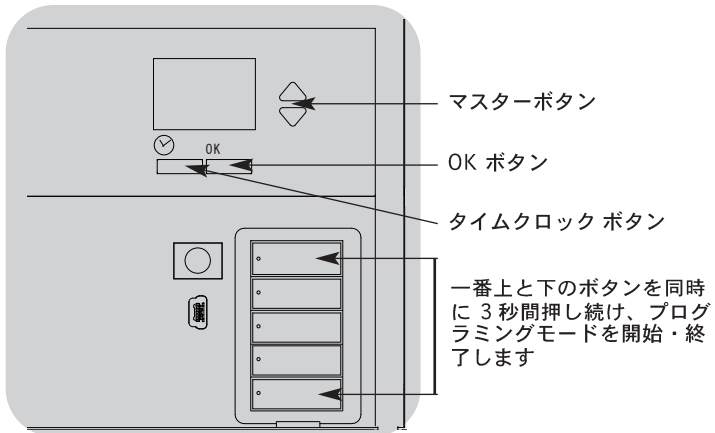
プログラミングモードを開始したときのディスプレイ



プログラミングモードを終了したときのディスプレイ

プログラミングモードにするには:
シーン選択ボタンの一番上と下を同時に 3 秒間押し続けます。照明ボタンの LED が上から下に循環点滅して、プログラミングモードになっていることを示し、またディスプレイにはメインメニューが表示されます。

プログラミングモードを終了するには:
シーン選択ボタンの一番上と下を同時に 3 秒間押し続けます。ディスプレイは「Scene 1」(シーン 1) を表示します。



プログラミングモードのメニューを操作する

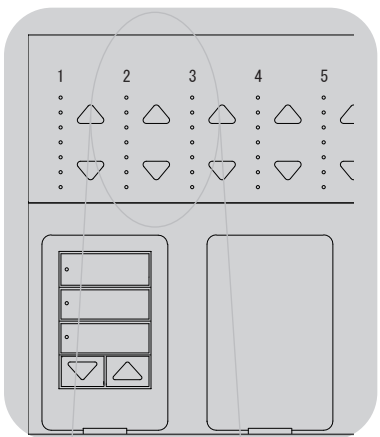
マスターボタン
マスターボタンは、メニューのスクロールに使用します。カーソルを合わせた項目は反転表示されます。

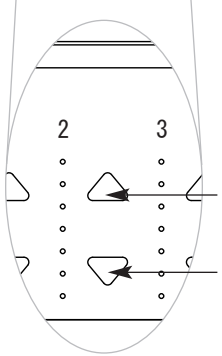
OK ボタン
OK ボタンは現在反転表示されている項目を選択するのに使用します。OK ボタンを押すと、次のメニューに進むか、または選択を決定します。

タイムクロックボタン
プログラミングモードでは、タイムクロック ボタンは「戻る」ボタンとして機能します。タイムクロックボタンを押すと、現在のメニューから 1 つ前のステップに戻り、繰り返し押すと最終的にはメインメニューにもどりますが、プログラミングモードを終了することはできません。

ゾーン アップ/ダウン ボタンの操作

上下ボタンはそれぞれ照明またはSivoia QS電動カーテンの 1 ゾーンに対応しています。このボタンのどれかを押すと、ディスプレイに対応するゾーンの現在照度と省エネ状況の目安が表示されます。
アップ/ダウン ボタンを押して実行する操作はゾーンのタイプによって異なります(詳細は以下参照)。





LED は照明レベルの目安を示します
注意：ゾーンの照明タイプに対応する LED 表示詳細については 17 ページをご覧ください。

ゾーン アップ

ゾーン ダウン

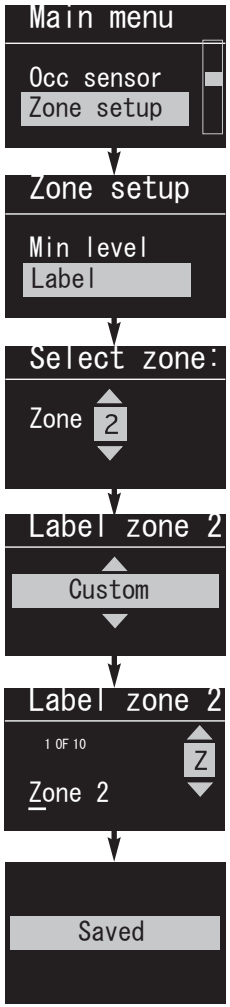
調光ゾーン:

- 押し続けると、ゾーンの照明レベルがアップまたはダウンし、指を離すと止まります
- フェード中のゾーンの場合、アップまたはダウンボタンを押すと、フェードがストップします
- ゾーン照明レベル 0 から 100までのアップ、または 100 から 0 までダウンするには、ゾーンアップボタンまたはダウンボタンを押し続けて約 5 秒かかります
- ゾーン照明レベル 0 と 100 を瞬時に切り替えたい場合は、そのゾーンのアップ・ダウンボタン両方を同時に押します

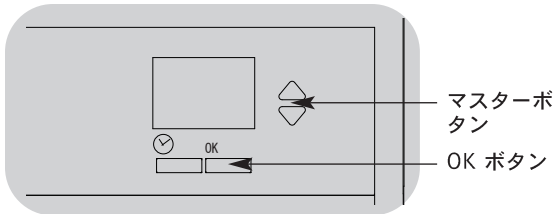
非調光ゾーン:

- アップボタンを押すとゾーンの照明がオンになります
- ダウンボタンを押すと、ゾーンの照明がオフになります

ゾーン名の作成



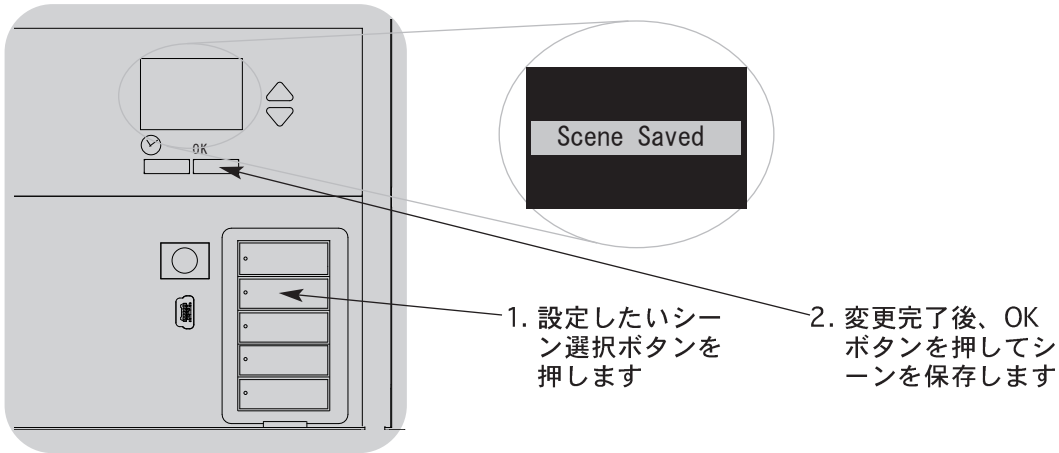
1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Zone setup 」(ゾーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Label」(ラベル) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで名前を作成するゾーン番号に切り替え、OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで「Custom」(変更) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
6. マスターボタンでアルファベット (小文字、大文字、数字の 0～9 まで) を順に表示します。現在入力している箇所の文字に下線が表示されます。入力したいアルファベットが表示されたら、OK を押し、ゾーン名が完全に入力されるまでこの操作を繰り返します。文字を入力しない部分は、スペースを入力しOK を押します。最大12文字まで入力できます。入力が完了したら、OK ボタンを押して決定します。
7. ディスプレイには、ゾーン名が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。



クイック シーン プログラミング

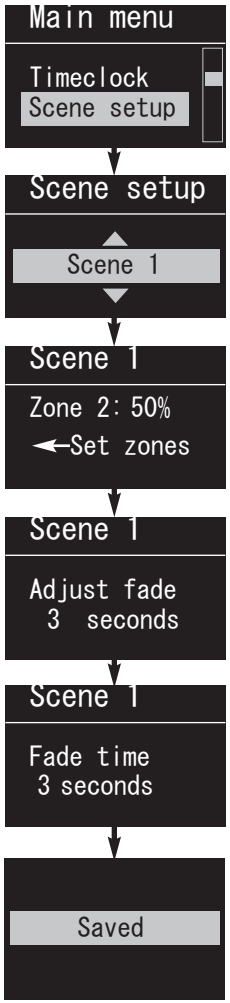
OK ボタン保存モード
工場出荷時は「OK ボタン保存モード」に設定されています (23 ページ参照)。このモードでは、プログラミングモードを開始しなくても、照明コントロールボタンですばやくシーンを設定することができます。

1. 設定したいシーンボタンを押します。LED が点灯し、照明が現在の設定で点灯するので、その後OKボタンを押します。
2. ゾーン アップ/ダウンボタンで、すべての照明をご希望のレベルに調整します。
3. OK ボタンを押します。マスターボタンを押して、シーンに適用するフェードタイムを設定します。
4. OK ボタンをもう一度押すと、ディスプレイには設定が完了したことを示すメッセージ（Scene Saved）が表示されます。



プログラミングモード内でのシーン設定

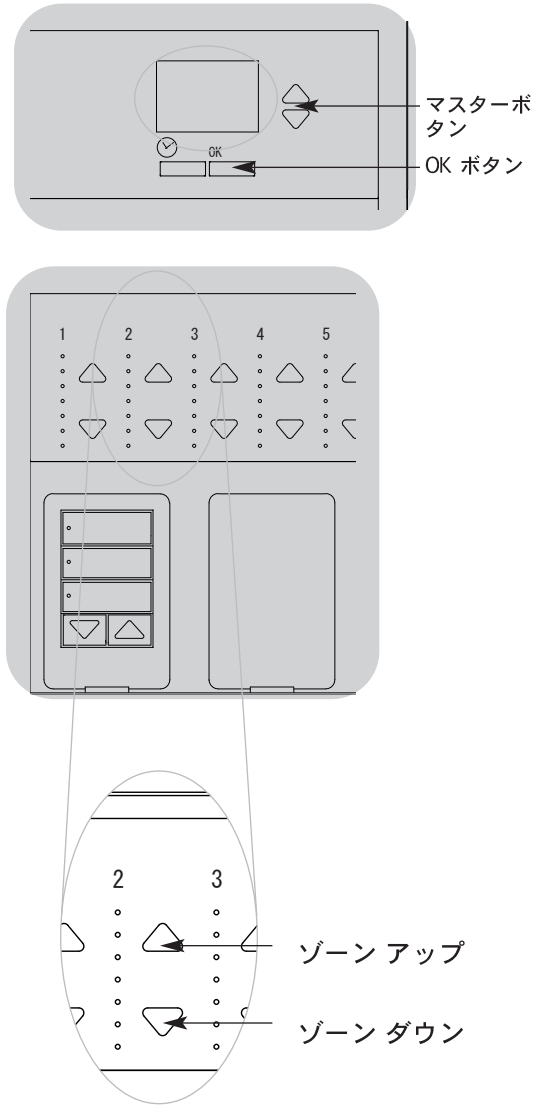
シーンをプログラミングする



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Scene setup」(シーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。3. マスターボタンで、「Level」(照明レベル設定) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、設定するシーン番号に切り替え、OK ボタンを押して決定します。
5. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、このシーン用の照明レベルを各ゾーンごとに設定します。ディスプレイにゾーンと照度が表示されますので、希望に合わせて調整します。

   ゾーンを無変化（シーンが選択される直前の照明レベルを保持）にするには、そのゾーンの照明レベルをオフにまで下げ、さらにゾーン ダウンボタンを 3 秒間押し続けます。

   すべてのゾーンの照明レベルを設定したら、OK ボタンを押して決定します。
6. マスターボタンを押して、そのシーンに適用するフェードタイムを設定します。(フェードタイムは 0～59 秒または 1～60 分の間で設定できます。)OK ボタンを押して決定します。
7. ディスプレイには、シーンが保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。



LED による照明レベルの表示

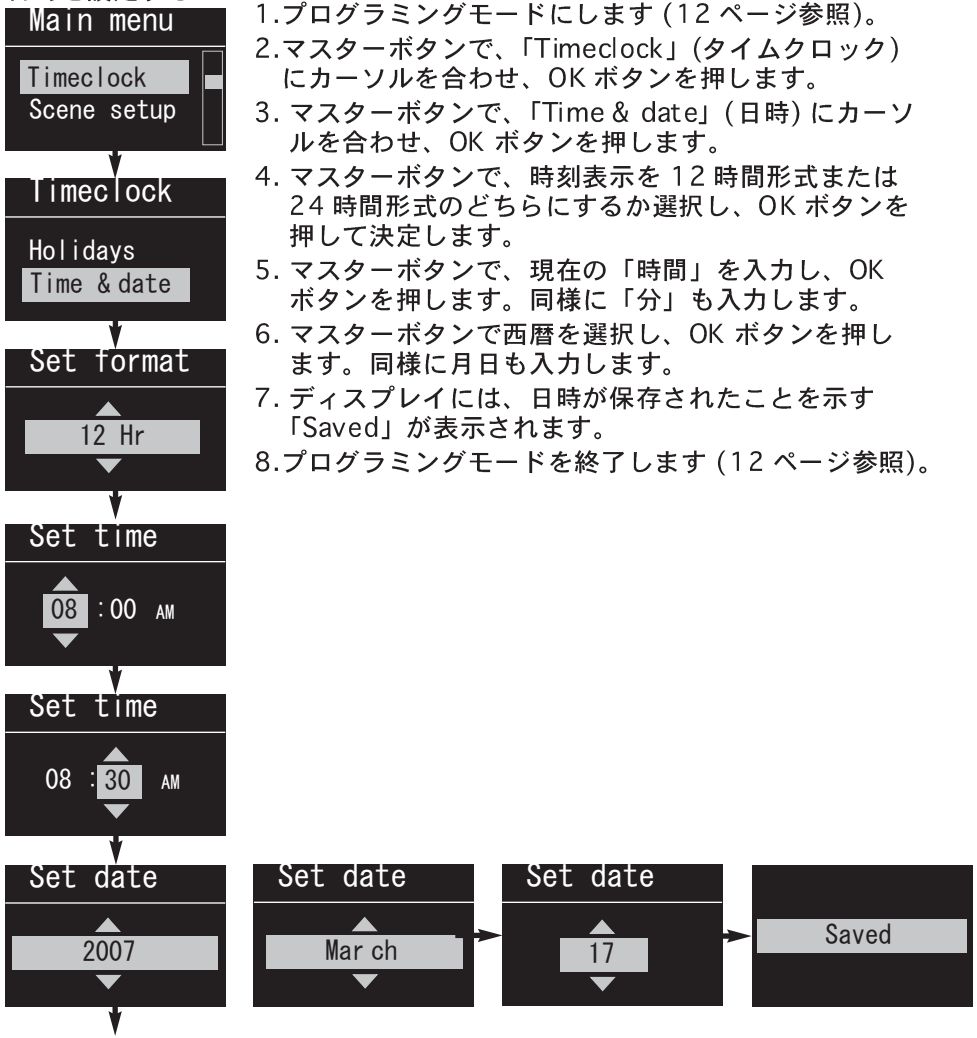
調光タイプの照明	非調光タイプの照明
オフ	
1～17%	
18～33%	
34～49%	
50～66%	
67～82%	
83～98%	
99～100% / オン	
無変化ゾーン (シーンボタンまたはマスター アップ/ダウンボタンで	

凡例:

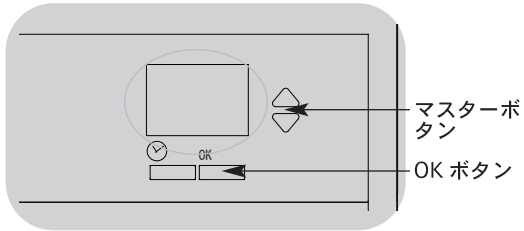
LED オン
LED オフ

タイムクロックの操作

日時を設定する

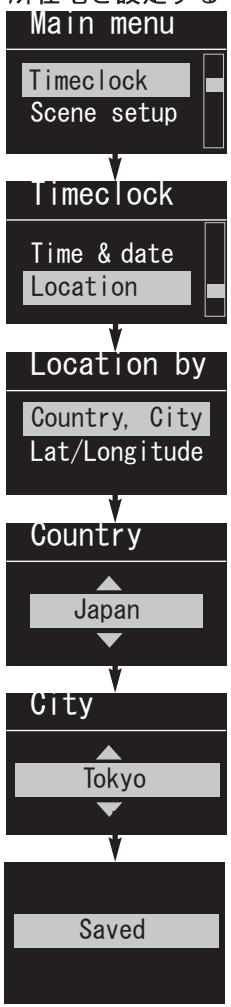


1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Timeclock」(タイムクロック) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Time & date」(日時) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、時刻表示を 12 時間形式または 24 時間形式のどちらにするか選択し、OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで、現在の「時間」を入力し、OK ボタンを押します。同様に「分」も入力します。
6. マスターボタンで西暦を選択し、OK ボタンを押します。同様に月日も入力します。
7. ディスプレイには、日時が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

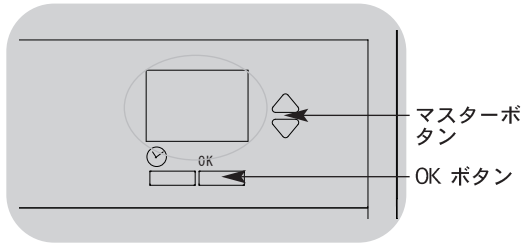


タイムクロックの操作

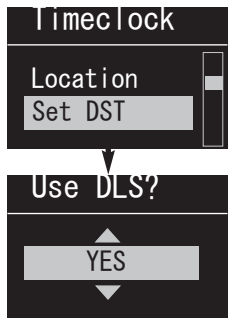
所在地を設定する



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Timeclock」(タイムクロック) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Location」(所在地) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Country, City」(国と都市名)または「Lat/Longitude」(緯度経度) のどちらかを選択して所在地を設定します。OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで、「country」(国名) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。「City」(最寄の大都市)も同様に選択します。
6. ディスプレイには、日時が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
7. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。



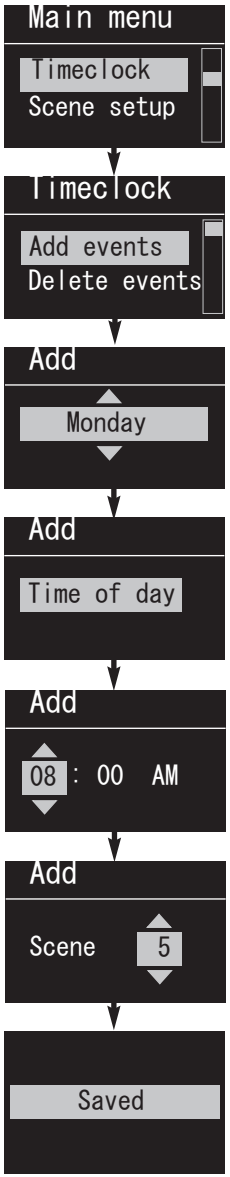
サマータイムを設定する（オプション）



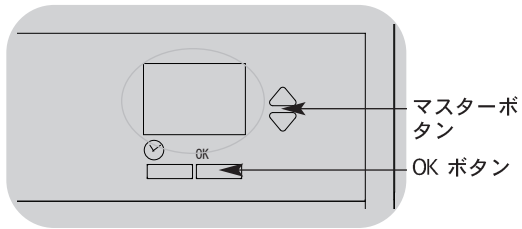
1. プログラミングモードを開始 (12 ページ参照) して、「Timeclock」を選択します。マスターボタンで、「DST」(ゾーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
2. サマータイムを適用する場合はマスターボタンで「YES」(はい) に、適用しない場合は「NO」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押して決定します。
3. 「yes」を選択した場合、マスターボタンで「USA 2007」(サマータイム適用期間: 3 月の第 2 日曜日～11 月の第 1 日曜日)、または「Other」(その他) を選択します。「Other」の場合は、ディスプレイの表示に従いサマータイムの適用期間を設定してください。
4. OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、日時が保存されたことを示すメッセージが表示されます。
5. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

タイムクロックの操作

イベントを追加する

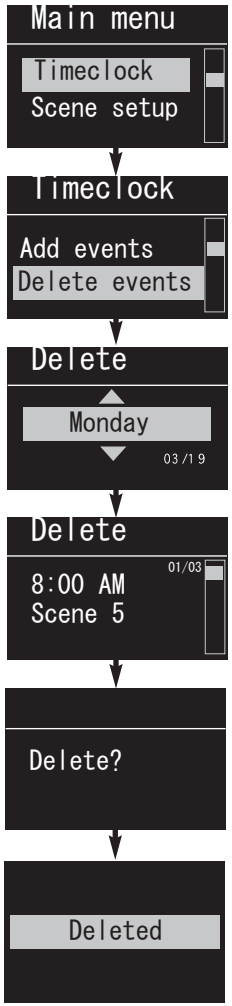


1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Timeclock」(タイムクロック) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Add events」(イベント追加) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、イベントを設定する曜日にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンでイベントのタイプを選択し (特定の時刻または日の入り・日の出に合わせる)、OK ボタンを押します。
6. 特定の時刻にイベントを設定するには、マスターボタンで開始時刻 (時・分)を選択し、OK ボタンを押します。日の出・日の入りに合わせた設定にするには、マスターボタンで、日の出・日の入り前後の時間を時・分の順で設定し、OK ボタンを押します。(最長で日の出・日の入りの前後 1 時間 59 分まで設定できます)
7. マスターボタンを押して、このイベントに適用するシーンを設定します。OK ボタンを押して決定します。
8. ディスプレイには、日時が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
9. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

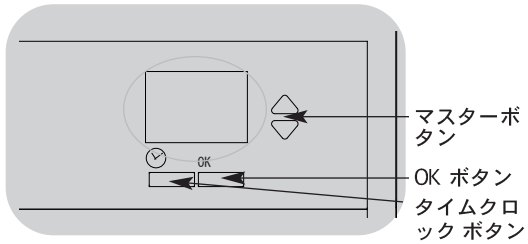


タイムクロックの操作

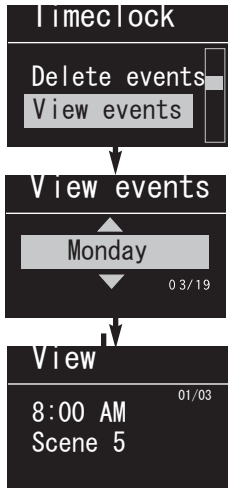
イベントを削除する



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Timeclock」(タイムクロック) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Delete events」(イベント削除) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンでイベントを設定する曜日 (またはHoliday / 特日) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで削除するイベントを選択し、OK ボタンを押します。
6. ディスプレイに削除を確認する「Delete?」が表示されます。OK ボタンを押して削除するか、タイムクロックボタンを押して前の画面に戻ります。
7. ディスプレイには、イベントが削除されたことを示す「Deleted」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。



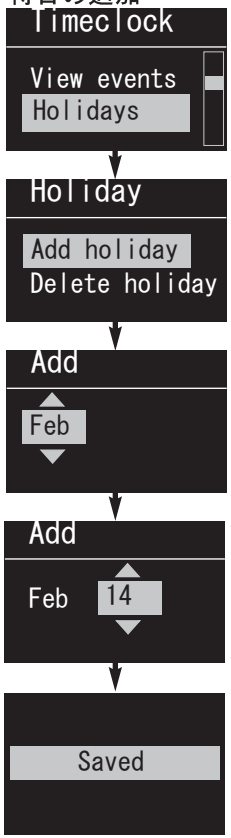
イベントを表示する



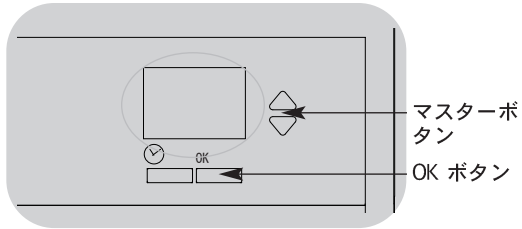
1. プログラミングモードを開始 (12 ページ参照) して、「Timeclock」続いて「View events」(イベントの表示) を選択します。
2. マスターボタンでイベントを表示する曜日 (またはHoliday / 特日) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで表示するイベントを選択し、OK ボタンを押します。
4. OK ボタンを押して、タイムクロックのメニューに戻ります。
5. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

タイムクロックの操作

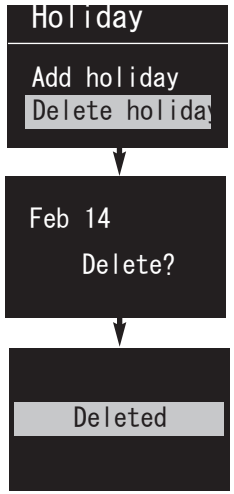
特日の追加



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで、「Timeclock」(タイムクロック) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Holidays」(特日) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで「Set Holidays」(特日の追加) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで特日を追加する月を選択し、OK ボタンを押します。同様に日付も選択します。
6. ディスプレイには特日が追加されたことを示す「Saved」が表示されます。
7. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

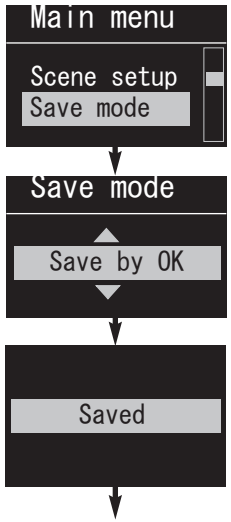


特日を削除する

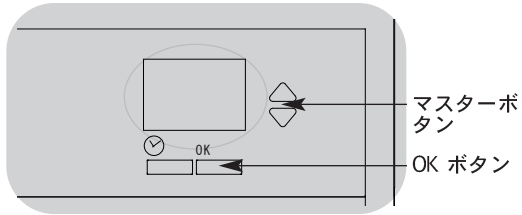


1. プログラミングモードを開始 (12 ページ参照) して、「Timeclock」、続いて「Holidays」(特日)、さらに「Delete holiday」(左図を参照) を選択します。
2. マスターボタンで、削除する特日を選択し、OK ボタンを押します。
3. ディスプレイには、特日が削除されたことを示す「Deleted」が表示されます。
4. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

保存オプションの設定



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで「Save mode」(保存オプション) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで適用する保存オプションにカーソルを合わせます。各保存オプションの詳細は本ページの下をご覧ください。
4. ディスプレイには、保存オプションが設定されたことを示す「Saved」が表示されます。
5. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。

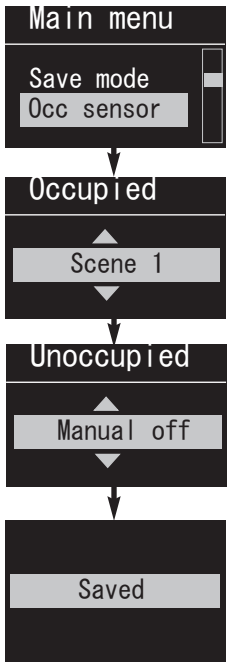


保存オプション一覧

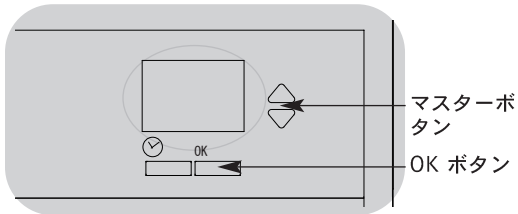
OK ボタン保存 (工場出荷時設定) (Save by OK) . . . クイック シーンプログラミングが可能なモードです (15 ページ参照)
常に保存 (Save always) . . . . . 照明レベルやフェードタイムへの変更をすべて自動的に保存するモードです
常に保存しない (Save never) . . . . . 照明レベルやフェードタイムへの一時的な変更はどのような場合も保存しないモードです
4 シーン (Four scenes) . . . . . ゾーン アップ/ダウン ボタンの操作を無効にするモードです (主にレンタルスペースなどで使用します)
マスター アップ/ダウン ボタン、補助コントロール、リモコンによる照度調整は引き続き可能です
ボタン操作無効 (Button disable) . . . . . タイムクロックボタン、リモコン、補助コントロールでのみ選択・一時的な変更ができるようにするモードです (主に公共的な空間などで使用します)

注意: オフシーンは、プログラミングモードのシーンセットアップモード以外で変更することはできません。保存オプションではオフシーン設定のフェードタイムのみ変更が可能です。

在室センサーの設定



1. プログラミングモードにします (12 ページ参照)。
2. マスターボタンで「Occ sensor」(在室センサー) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで在室時に適用する照明シーンにカーソルを合わせます。
   お住まいの地域の照明関連法規によって定められている場合、手動による点灯も選択することができます (Manual On)。これを選択すると、センサーが人を感知した場合でも照明は自動的に点灯されず、手動で点灯させる必要があります。
4. OK ボタンを押して選択内容を決定します。
5. マスターボタンで、部屋にだれもいない場合に適用する照明シーンにカーソルを合わせます。
   「Manual Off」(手動オフ) 選択することができます。これを選択すると、部屋に人がいなくなった場合でも、センサーにより照明が消灯することはありません。
5. OK ボタンを押して選択内容を決定します。ディスプレイには、在室センサーの設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します (12 ページ参照)。



在室および無人モード

在室 (無電圧接点が閉じた状態) . . . 在室センサーまたは在室センサーに接続された接点入力が閉じた場合に、在室シーンが開始します。
無人 (無電圧接点が開いた状態) . . . 在室センサーまたは在室センサーに接続された接点入力が開いた場合に、無人シーンが開始します。

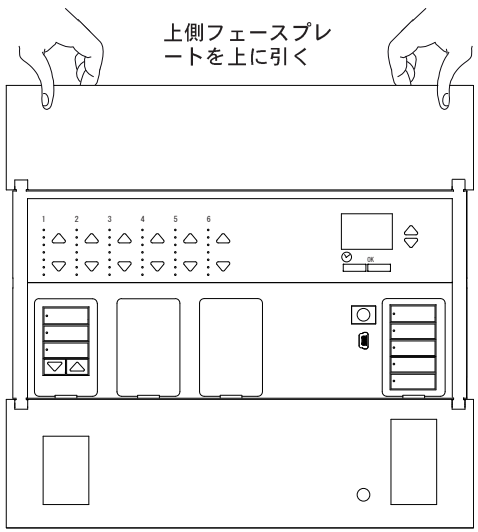
システムアクセサリーの起動

コントロールユニットのプログラミングが完了したら、システムに接続しているアクセサリーやインターフェースを起動させる必要があります。各機器に付属の取扱説明書をお読みになり、*GRAFIK Eye* QS コントロールユニットと正しく通信できるようにセットアップしてください。

フェースプレートの取り外し

色の変更やゾーン名の記入のため、フェースプレートを取り外す必要がある場合があります。フェースプレートを取り外すには、取り外す方のフェースプレートを完全に開き (壁と平行になるまで)固定されているプレートを上 (上側フェースプレートの場合) または下 (下側フェースプレートの場合) に引き、ヒンジを差込み口から取り外します。

元に戻す場合は、ヒンジを再び差し込みます。



トラブルシューティング

問題	考えられる原因	対処方法
ユニットで負荷のコントロールができない。 ユニットで照明を点灯できない。 ユニットの LED が点灯しない。 ブレーカーがトリップする。	ブレーカーがオフになっている。 フェードタイムが長すぎる。 ゾーンの照度設定が低すぎる。 誤配線。 システムに短絡がある。 システムが過負荷状態になっている。	ブレーカーをオンにしてください。 フェードタイムを短くしてください。 ゾーンの照度設定を上げてください。 配線をチェックしてください。 短絡箇所を探し、修正してください。 ユニットに過負荷がないようにしてください。(ユニット最大容量 1600 W / ゾーン最大容量 600 W)。
ユニットで負荷のコントロールができない。 ゾーンのコントロールができない。	誤配線。 接続不良。 電球が切れている。	配線をチェックしてください。 ゾーンの出力線を負荷に正しく接続してください。 電球を取り替えてください。
どのシーンでも 1 つまたは複数のゾーンが 100 % オンになり、照度の調整ができない。	誤配線。 トライアックに短絡がある。	負荷が正しいゾーンに接続されているか確認してください。 トライアック（内部調光回路）が故障している場合はコントロールユニットの交換が必要な場合があります。
あるゾーンをコントロールすると他のゾーンにも影響がある。	誤配線。	ゾーンの出力間に短絡がないか確認してください。
ユニットのボタンが機能しない LED が状態を正しく表示しない。	低電圧配線に誤配線または接続不良がある。 補助コントロールが正しくプログラミングされていない。	コントロールユニットと補助コントロールなどのすべての低電圧端子で、接続不良箇所がないか確認してください。 ユニットのボタン機能と設定を確認してください。
フェースプレートが暖かい。	正常。	半導体による制御では接続した負荷の約 2 %が熱として放出されます。

トラブルシューティング (続き)

問題	考えられる原因	対処方法
コントロールユニットでシーンの変更やゾーンの調整ができない。	コントロールユニットが適切な保存オプションになっていない。 ボタン操作がロック (無効に) されている。	適切な保存オプションに変更してください。 各ボタンの設定を確認してください。
ディスプレイがオフになっている。	正常。	ディスプレイは最後の操作から約 20 秒後にオフになります。
在室センサーが正常に機能しない。	誤配線。 不適切なプログラミング。 接点入力の開閉が機能していない。 在室センサーのタイムアウト (遅れ時間) が長く設定されている。	無電圧接点入力の配線を確認してください。 在室/無人状態の入力をプログラミングし直してください。 センサーからの無電圧接点が正しく開閉しているか確認してください。 在室センサーのタイムアウト時間を短く設定してください。
タイムクロックイベントが実行されない。 日の出・日没イベントが正しい時間に作動しない。	タイムクロックがオフになっている。 タイムクロックが正しく設定されていない。 日付が正しく設定されていない。 所在地が正しく設定されていない。 特日のスケジュールが起動している。	タイムクロックをオンにしてください。 正しい時刻を設定してください。 正しい日付を設定してください。 正しい緯度経度を設定してください 特日の設定を解除してください。

Lutron Electronics Co., Inc.
限定保証ルートロン アスカ株式会社は、その裁量により、ご購入より1年間を限度として、部品や製造上欠陥のあるユニットを修理または交換いたします。保証サービスの適用にあたっては、不具合のあるユニットをルートロン アスカ株式会社に返送していただく必要があります。詳細はルートロン アスカ株式会社までご連絡ください。本保証書は単一の明文規定とし、商品化の黙示保証および日本の民法(瑕疵担保)のもとでの黙示保証の適用は購入から1年に限定されます。本保証には、取り付け、取り外し、再取り付け、および誤用や乱用、不十分・不適切は修理に直接起因する損傷、あるいは配線ミス、取り付けミスに関する費用は含まれません。また、本保証は、付随的、間接的に発生する損傷や特殊な損傷をカバーするものではありません。なお、ルートロン アスカ株式会社が、ユニットの製造、販売、取り付け、配送、使用に直接または間接的に起因する損傷に対して請け負う責任は、ユニット本体の購入価格を超えないものとします。本製品は、以下に示すひとつまたは複数の特許により保護されています。4,797,599; 4,803,380; 4,835,343; 4,893,062; 4,924,151; 5,038,081: 5,191,265; 5,430,356; 5,463,286; 5,530,322; 5,949,200; 5,990,635; 6,091,205; 6,380,692; DES 310,349; DES 311,170; DES311,371; DES 311,382; DES 311,485; DES 311,678; DES 313,738; DES 317,593; DES 335,867; DES 344,264; DES 370,663; DES378,814; D387,736; D412,315; D412,491; D422,567; D436,930; D453,742; D456,783; D461,782 LUTRON

除外と限定事項
本保証で明確に規定されている場合を除き、特定目的への適合性や商品性などに対する明示的または黙示的ないかなる保証も行われないものとします。ルートロンは装置の中断のない動作や誤動作などを保証するものではありません。
ルートロンの販売店・社員・代理店には、装置の保証に関するいかなる確約・説明・保証についても、ルートロンを拘束する権限がないものとします。販売店・社員・代理店が確約または説明もしくは保証した内容が、本保証またはLUTRONの標準印刷物に具体的に記述されている場合を除き、ルートロンとお客様の契約条件をなすことはなく、したがってルートロンに対するいかなる拘束力もありません。
ルートロンおよびその他関係者は、いかなる場合も懲罰的損害・間接的損害・偶発的損害・特殊損害に関して責めを負わないものとします。(利益損失・機密またはその他の情報損失・プライバシーの損失、事業の中断、人的損傷、誠意や注意を含む義務の不履行、怠慢などにより発生する経済上またはその他のいかなる損失も含みますがこれに限定されません)また、装置の取付け・取外し・使用または使用不能に起因・関連し、ルートロンの書面による同意なく行われた修理または、本保証およびこの保証を含むその他同意に関連しそのもとで行われた修理についても責任を負わないものとします。ルートロン社およびその供給業者による過失・不法行為(怠慢を含む)・厳格責任・契約不履行・保証不履行の場合や、ルートロン社や供給業者がかかる損害について知らされていた場合でも同様です。

お客様がこうむる損害の理由および種類にかかわらず(あらゆる直接的損害および上述のすべての損害を含みますがこれに限定されるものではありません)、装置の製造・販売・取付け・配送・使用・修理・交換に起因・関連して発生した損害に関する保証サービスに関するLUTRON社およびその他関係者の本保証のもとでの全責任、または、この保証を含むあらゆる合意、および上述のお客様に対する救済は装置のお買い上げ額を上限とします。上述の制限・除外・免責事項は、保証サービスの目的(救済)が果たされなかった場合でも、適用法令が認める最大限の範囲で適用されます。

これらの製品は下記に示す 1 つ以上の米国特許で保護されています。4,797,599; 4,893,062; 4,924,151; 5,191,265; 5,430,356; 5,463,286; 5,949,200; 5,990,635; 6,091,205; 6,188,181; 6,380,692; および対応する各国特許 Other U.S. and foreign patents may be pending.
Lutron、Lutron ロゴ、Sivoia、GRAFIK Eyeは Lutron Electronics Co., Inc.の登録商標です。
© 2007 Lutron Electronics Co., Inc.

連絡先

インターネット: www.lutron.com/japan
電子メール: asuka@lutron.com

WORLD HEADQUARTERS
USA
Lutron Electronics Co., Inc.
7200 Suter Road, Coopersburg, PA 18036-1299
TEL: +1-610-282-3800
FAX: +1-610-282-1243
Toll-Free 1-888-LUTRON1 (in USA)
Technical Support: 1-800-523-9466 (in USA)

Brazil
Lutron BZ do Brasil Ltda.
AV, Brasil, 239, Jardim America
Sao Paulo-SP, CEP: 01431-000, Brazil
TEL: +55-11-3885-5152
FAX: +55-11-3887-7138

North and South America Technical Hotlines
USA, Canada, Caribbean: +1-800-523-9466
Mexico: +1-888-235-2910
Central/South America: +1-610-282-6701

EUROPEAN HEADQUARTERS
United Kingdom
Lutron EA Ltd.
6 Sovereign Close, London, E1W 3JF United Kingdom
TEL: +44-(0)20-7702-0657
FAX: +44-(0)20-7480-6899
FREEPHONE (UK): 0800-282-107
Technical support: +44-(0)20-7680-4481

France
Lutron LTC, S.A.R.L.
90 rue de Villiers, 92300 Levallois-Perret France
TEL: +33-(0)1-41-05-42-80
FAX: +33-(0)1-41-05-01-80
FREEPHONE: 0800-90-12-18

Germany
Lutron Electronics GmbH,
Landsberger Allee 201, 13055 Berlin, Germany
TEL +49-(0)30-9710-4590
FAX +49-(0)30-9710-4591
FREEPHONE: 00800-5887-6635

Italy
Lutron LDV, S.r.l.
FREEPHONE: 800-979-208

Spain, Barcelona
Lutron CC, S.R.L.
Gran Via del Carlos III, 84, planta 3ª
08028, Barcelona, Spain
TEL: +34-93-496-57-42
FAX +34-93-496-57-01
FREEPHONE: 0900-948-944

Spain, Madrid
Lutron CC, S.R.L.
Calle Orense, 85, 28020 Madrid, Spain
TEL: +34-91-567-84-79
FAX: +34-91-567-84-78
FREEPHONE: 0900-948-944

ASIAN HEADQUARTERS
Singapore
Lutron GL Ltd.
15 Hoe Chiang Road, #07-03 Euro Asia Centre, Singapore 089316
TEL: +65-6220-4666
FAX: +65-6220-4333

China, Beijing
Lutron GL Ltd. Beijing Representative Office
5th Floor, China Life Tower
No. 16 Chaowai Street, Chaoyang District, Beijing 100020 China
TEL: +86-10-5877-1817
FAX: +86-10-5877-1816

China, Shanghai
Lutron GL Ltd., Shanghai Representative Office
Suite 07, 39th Floor, Plaza 66
1266 Nan Jing West Road, Shanghai, 200040 China
TEL: +86-21-6288-1473
FAX: +86-21-6288-1751

China, Hong Kong
Lutron GL Ltd.
Unit 2808, 28/F, 248 Queen's Road East
Wanchai, Hong Kong
TEL: +852-2104-7733
FAX: +852-2104-7633

日本
ルートロンアスカ株式会社
107-0052 東京都港区
赤坂1-9-20 第16興和ビル南館4階
TEL: 03-5575-8411
FAX: 03-5575-8420
フリーダイヤル:0120-083-417

Asia Technical Hotlines
Northern China: 10-800-712-1536
Southern China : 10-800-712-1536
Hong Kong: 800-901-849
Indonesia: 001-803-011-3994
日本: 03-5575-8411
Macau: 0800-401
Singapore: 800-120-4491
Taiwan: 00-801-137-737
Thailand: 001-800-120-665853
Other countries: +65-6220-4666

LUTRON®

Lutron Electronics Co., Inc.
製作および印刷 : 米国 04/07
P/N 032-172 Rev. A